



ボランティア部門  
《食育推進ボランティア》

消費・安全局長賞

## NPO法人 花と緑のネットワークとよなか

(大阪府) 活動期間 18年

### 資源循環堆肥「とよっぴー」の活用を通じた農と食育活動の展開

#### 食の循環や環境を意識した食育の推進

資源循環型地域の形成のため生ごみ堆肥化実験を1999年に開始。2002年から学校給食の調理屑と食べ残しに街路樹の剪定枝を混合した土壌改良材「とよっぴー」の頒布・有効活用する団体として活動しています。自家農園（約1千㎡）での「作物栽培・収穫」による農体験や収穫作物を家庭で食する取組を行い、親子や市民に農業と資源循環の大切さを訴えています。



300組の家族が一斉にサツマイモを収穫

#### 食品ロス削減と農への理解の促進

小学校の児童を対象としたお米づくり学校（田圃・バケツ稲）では、稲の植え付け、収穫、粳摺り・脱穀・精米、調理・試食を行うとともに、教室では、給食調理屑や食べ残しが堆肥となり作物が育つことを説明し、資源循環を実感するとともに、「スプーン一杯」余分に食べよう、と訴え、農業への関心を深め、食べ残しを減らす意識を高める取組を行っています。



農業について学ぶ環境教育

#### 多様な連携体制

豊中市公園みどり推進課、同子育て支援課、同保健所健康増進課、同教育委員会市内小学校、同こども園等との連携により、親子による食育スタディ、親子で学ぶ「畑の楽校（がっこう）」、サツマイモの植え付けや収穫等を実施しています。小学校でのお米づくり学校（田圃・バケツ稲）以外は、市が製造する堆肥化施設に併設される自家農園で、参加者は堆肥製造システムを見学し、完成堆肥によって作物が生育することを確認できるようになっています。典型的な都市部で農業を直に体験する取組を行い、環境に視点をおいた食育に繋がっています。



親子で学ぶ「畑の楽校」での採りたて野菜の試食



この間、豊中市が土壌改良材「とよっぴー」を製造してきましたが、本年4月より当法人が製造を受託し、これによって製造と活動を一体的に行うことが実現しました。有機性資源の利活用を諸団体とともに行い、「農」と「食」を使命（ミッション）に多様な資源循環の活動を今後も推進していきます。

NPO法人 花と緑のネットワークとよなか  
理事長 高島 邦子